

2020年度全学統一入学試験問題

国語【看護学部】

(2月3日)

開始時刻 午後1時00分

終了時刻 午後2時00分

※ 数学の問題は、本冊子の左開きのページにあります。

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は20ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 国語か数学のどちらか1科目を選択し、該当する解答用紙を切り離して解答してください。2科目とも解答した場合は、すべて無効となります。

数 学 1～3ページ

国 語 1～17ページ

4. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

① 受験番号欄

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名とフリガナを記入してください。

5. 解答は解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、

10

と表示のある問いに対して◎と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の◎にマークしてください。

(例)

10	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
----	-----	-----	-----	-----	-----

6. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

一 次の文章を読んで、後の問一〜八に答えなさい。

哲学を「対話」という形で行う試みは、学校で子どもたちの思考力を育てるための方法として始まった。だから哲学対話は、一般には「子どものための哲学 (Philosophy for Children)」のスタイルとして知られている。かつては欧米でも、日本と同じように、哲学はややこしくて難しく、^ア ショウな^アものだった。だから、高校までに他のことをしつかり身につけたうえで、大学に入ってから学ぶべきものだと思われていた。

ただ欧米では、日本とは違って、哲学が役に立つかどうかも分からない、ただの教養としてではなく、あらゆる知的営為——学問のみならずビジネスにおいても——の基礎を作るものとされている。だから、「哲学って面白いよね」とか「哲学を勉強してます」と言っても、日本ほど奇異な印象は与えない。それどころか、場合によっては、ある程度リスpektしてもらうことも期待できる。

欧米の社会では、もともと自分の考えや意見をもつことが許容されているし、求められもする。考えることにも議論することにも慣れているし、自分の意見をしつかり主張する。だから、「考えること」そのものを専門にする哲学も、認知されているのだろう。

他方で、欧米の人たちも、意外にソボク^イであったり、X、結局は多くの人が似たような考え方をしている。彼らがよく考えているからといって、自由にものを考えているとは、かならずしも言えないのである。

それに議論と自己主張は、その気になれば、屁理屈とレトリックでも立派にこなせる。頭がよくても、ただ口が達者で他人のあら捜しをするのが得意なだけの人もいる。悪知恵ばかり働く^{やから}輩もいる。思考力があっても、自分を正当化するための道具や、悪事を行うためのY になってしまう意味がない。

思考は、論理的で一貫性がないといけない。だがそれだけではなく、他人や物事に対してのみならず、自分自身^{自分自身}に対して、批判的・反省的でないべならぬ。柔軟^{柔軟}で自由^{自由}でなければならず、バランスや公平^{公平}さも必要である。

もしそうした^A広い意味での思考力を育てるのが哲学の役目の一つだとしたら、大学に入ってから教わるのでは遅すぎるのではないか。もっと早く、小中学校から始めたほうがいいのではないか。

というわけで、70年代のアメリカで、子どもから学べる哲学の教材と方法が考案された。その核心は、「哲学」と呼ばれる分野の知識を理解して習得することではなく、考えることを、身をもって「学ぶことである。それには「対話」という形がふさわしい。そこで生徒たちは、互いに意見や疑問を出し合い、いっしょに考える力を磨いていく。

現在こうした対話型の哲学教育は、欧米をはじめ世界各地に広がっている。国によっても、どのような学校かによっても、重視していること、目的と

していることはいろいろであるが、たんに思考力や判断力など知的能力の育成だけを目指しているのではない。

それと同時に、自ら考えて判断する主体性と責任感、自分の考えを言葉で表現し、他者の意見を聞くコミュニケーション能力、お互いに共感し、相手を尊重し、自分と他者の違いを受け止める寛容さなど、さまざまな資質を育もうとしている。

もちろんあらゆる教育がそうであるように、これはうまくいった場合の話である。対話だけやっていればいいというわけでもないし、対話をすればかならずこうなるというものでもない。けれども、対話を学びの基礎ないし中心に置くと、このように知的なだけではない、^Bバランスのとれた広い意味での思考力(以上のもの)が育つ土壌を作ることができる。

こんなことを書くと、「それは素晴らしい！ 学校教育の中にどんどん取り入れましょう！」と大カ^ウンゲイする人もいれば、「そんなにうまくいくのか？」と懐疑的な人もいるだろう。現行の学校制度において、哲学対話が現実にとどのような可能性をもっているのか、ここでとくに書くつもりはない。むしろ重要なのは、こうした広い意味での思考力は、子どもだけに必要なわけでも、子どもだけができないわけではない、ということだ。大人でもできない人はたくさんいるし、誰もがつねにできるといえるものでもない。

それどころか、「考えること」は、Z。そういう意味では、このような対話を軸とする「子どものための哲学」は子どものためだけではなく、大人のためでもあり、もっと言えば、「みんなのための哲学 (Philosophy for Everyone)」なのだ。実際、哲学対話の実践者は、子どもとだけではなく、学校だけでもなく、大人とも、学校以外のいろんなところで対話を行っている。I

私自身、数年前から、哲学対話に限らず、子どもを相手に哲学を教える機会が増えている。そのさい私心がけているのは、哲学の思想や概念などの知識を伝えるのではなく、彼ら自身が哲学的に考えること、言い換えれば、哲学を「体験」することである。そこでとくに中高生に対しては、簡潔に「哲学とは問い、考え、語ることです」と説明している。II

私たちは、「問う」ことではじめて「考える」ことを開始する。思考は疑問によって動き出すのだ。だが、ただ頭の中でグルグル考えていても、ぼんやりした想念が浮かんで消えるだけである。だから「語る」ことが必要になる。きちんと言葉にして語ることで、考えていることが明確になる。そしてさらに問い、考え、語る。これを繰り返すと、思考は哲学的になっていく。III

それで小学校では、この「問う」をもっと強調して、「分からないことを増やそう」と言っている。学校をはじめ、世の中では、いろんなことを学んで分かることを増やし、分からないことを減らすのがいいとされる。哲学はその真逆である。分からないことがたくさんあれば、それだけ問うこと、考えることが増える。IV

最近では、学校だけでなく、セミナーやワークショップ、地域コミュニティなどで、社会人、主婦、教員など、一般の人たちの前でも哲学の話をする

ことが増えたが、そのさいもこの二つの定義、「問い、考え、語ること」「分からないことを増やすこと」が、いちばん納得してもらえる。V

(梶谷真司『考えるとはどういうことか 0歳から100歳までの哲学入門』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

問一 傍線部ア～ウを漢字表記に改めた場合、これと同じ漢字を用いるものを、次の各群の選択肢からそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマーク

しなさい。解答番号は、アが 、イが 、ウが 。

ア コウシヨウ

- ① シュシヨウな心掛け
- ② 医学博士のシヨウゴウ
- ③ 部長にシヨウシンする
- ④ シヨウダクを得る
- ⑤ 山寺のオシヨウさん

イ ソボク

- ① 害虫をボクメツする
- ② 国民のコウボク
- ③ ジュンボクな人柄
- ④ 旧習をボクシュする
- ⑤ ウドのタイボク

ウ カンゲイ

- ① カンルイにむせぶ
- ② カンシンを買う
- ③ カンマンな動き
- ④ 入会をカンユウする
- ⑤ 注意をカンキする

問二 空欄 に入る表現として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 。

- (a) 啓蒙思想にもとづいたりして
- (b) 原理主義におちいつていたりして
- (c) 相対的に考えようとしたりして
- (d) 固定観念にとらわれていたりして
- (e) 袋小路に入ってしまったりして

問三 空欄 に入る表現として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 。

- (a) 狡猾こうかつさ
- (b) 不敵さ
- (c) 浅薄せんぱくさ
- (d) 粗忽そこつさ
- (e) 傲慢ごうまんさ

問四 傍線部A「広い意味での思考力」とあるが、これはどのようなものか。その説明として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 。

- (a) ささまざまな修辞を使いこなすことによって、相手に自分の考えを分かりやすく提示し、納得させる力。
- (b) 他者の考えに批判的であるだけでなく、自分の考えにも固執することなく、しなやかに頭を働かせる力。
- (c) 多くの人がもっている考えや過去の人たちの考えにとらわれることなく、個性的な考えを導き出す力。
- (d) 他者の考えに安易に同調することなく、自らの考えを論理的に構築し、論理に破綻を来さずに考える力。
- (e) 自己と他者の考えの違いを客観的に分析したうえで、公平にどちらの考えが正しいのかを判断する力。

問五

傍線部B「バランスのとれた広い意味での思考力（以上のもの）が育つ土壌を作ることができる」とあるが、なぜ「対話」によって、そのような「思考力」を育てることができるのか。その説明として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

7

- Ⓐ 一人で考えているだけではなく他者とともに考えることによって、主体性や責任感が生まれてくるから。
- Ⓑ 考えていることを文字に記すのではなく声に出すことによって、分らない点が何かが分かってくるから。
- Ⓒ 論理的に物事を捉えるだけではなく感性を働かせることによって、バランスよく考えることができるから。
- Ⓓ 自問自答をするだけではなく他者からの問いかけがあることによって、新たな視点もたらされるから。
- Ⓔ 観念的に思考しているだけではなく言葉にすることによって、考えていることが明確になっていくから。

問六 空欄

Z

に入る表現として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

8

- Ⓐ 子どもだけではなく、どんな人にとっても、全くなねる手立てがない
- Ⓑ 生活の場だけではなく、社会全体でも、なかなか実践する機会がない
- Ⓒ 年齢にかかわらず、また男女に関係なく、修得する気持ちがない
- Ⓓ 家庭や会社でも、そして学校においても、体験する時間がない
- Ⓔ 大人に至るまで、それどころか死ぬまで、ほとんど学ぶ場がない

問七

本文中には次の文が脱落している。この文が入る箇所として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

9

だから、どんどん分からなくなるのがいい、というのが哲学なのだ。

- Ⓐ I
- Ⓑ II
- Ⓒ III
- Ⓓ IV
- Ⓔ V

問八

本文の内容と合致しているものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

10

- Ⓐ 哲学対話は欧米の社会では近代以前から行われていたが、日本の社会では一部の人たちが始めたばかりである。
- Ⓑ 哲学対話は子どもたちの主体性を育て勉強に取り組む姿勢を変化させるため、成績向上に役に立つものである。
- Ⓒ 哲学対話は子どもたちの思考力を育てるため方法として始まったが、それはみんなのためのものでもある。
- Ⓓ 哲学対話は現行の学校教育の中でどのような可能性があるのかは未知数であるため、導入を急ぐべきではない。
- Ⓔ 哲学対話は難しいと敬遠されていた哲学を体験する有効な方法であり、哲学が定着する契機となるものである。

次の文章を読んで、後の問一〜六に答えなさい。

葛飾北斎に『さんていがふ三体画譜』という絵手本集がある。人々や動物、植物、風景などを真・行・草の三体で描きわけたものだ。真は写実的に、行は少し崩して、草はさらに崩して描いたもの。この順に筆数が減り、単純化されている。真は極細の筆で細部の線の一本いっぽんまで描きこまれ、図鑑のように詳細がわかる。草でもそれほど大きな崩しはないが、詳細が省かれて太い筆の勢いがある。そのせいか、動きや雰囲気を感じられる絵が多かった。

絵の複雑さで伝わるものが変わる。単純化するときには、何を伝えたいかで、何をどう抽出すべきかが違ってくる。

たとえば、単純化の一つの極みがピクトグラム。(注1)禁煙や非常口、トイレのマークなどは、言葉がわからなくても意味が伝わるようにデザインされている。そこに抽出されているのは、わたしたちがモノを見るとときに「何か」として認知する、意味処理のときに参照するスキーマ(注2)に近い。たとえば「煙草とは、細長い筒の先端から煙が出る」といった、モノについての一連の知識のことだ。それも多くの人が共有する一般的な知識、いわば

X を抽出している。

スマホなどの絵文字も同じ。意味を伝えるためのデザインでは、意味処理に必要な情報が最小限に抽出されているので、すっと意味がわかる。

Y 絵文字は、アップデートのたびにより写実的になって、一つの絵文字の意味が限定されてきた気もする。描きこみの多い複雑な絵ほど、情報量が多く具体的になるかわりに、一般性は失われる。

ただしデザインの場合も、完全に X 的に単純化されると、わかりやすいけれどつまらない。あえてはずした部分や意味を隠した隠喩的な部分がある方がおもしろいし印象に残る。

さらに、デザインでなくアートになると、むしろいかに X でないものを抽出するかが肝心なのではないか。

抽象絵画の祖とされるカンディンスキーのエピソードがある。カンディンスキーは、ある日、自分のアトリエにすばらしい作品があるのを見つけた。何の絵だかわからないけれど、ケツアサクだ。近づいてみると、それは横向きに立てかけたウマの絵だった。そしてウマだとわかったとたん、絵の魅力は一気に失せてしまった。そこからカンディンスキーは抽象表現に向かっていく。安直な意味は鑑賞のじゃまになるのだ。

言葉をもった人間は、目に入るモノを「何か」としてラベルづけして見ようとする癖がある。つまり意味処理しようとするのがふだんの「見る」だとしたら、アートのツボは、わたしたちに「見る」をさせないことにあるように思う。

作品に表現されたモノは、既存のスキーマから外れていたり、「何か」であること自体を拒否したりする。そのときわたしたちは「何か」として「見る」のをあきらめて、そのモノ本来の形や色や質感をそのままじっくり「視るみ」。そうして作品と向きあううちに、埋もれていた記憶が掘り起こ

されたり、思いがけない連想がつながって自分なりの意味が見いだされたりする。それが「観る」という主観的な体験ではないかと考えている。

だから抽象表現主義の作品や抽象的な現代アートと向きあうときは、自分と向きあっているような、ほとんど瞑想めいをしているような気分になる。

意味ではない部分、それも自然からぎゅっと凝縮されたエッセンスが抽出されていると感ずるのが、熊谷守一くまがひだ。ネコ、アリ、石ころ、雨粒、晩年の作品ほど、より単純化された線や形で、色もべたつとぬりこめてある。でもそれは、ピクトグラムの抽出とはまるで違う。一匹いっぴき、一粒ひとつぶ、それぞれの一瞬の動きや存在のおもしろさが抽出されているように感じる。一見単純な形や色に表現されているのは、Z 自然の多様さや複雑さの方だ。毎日アイアイきもせず、アリや石ころをじいっと見つめていた人にしか描きだせないものだろう。とことん「観る」ことではじめて見える世界を、作品をとおして垣間かひまみせてくれる。

文章を書くときにも、必要な情報を単純にわかりやすく、と意味だけ抽出すると、教科書みたいでつまらなくなる。

書く過程では、ぼんやりした考えを言葉に抽出している感もある。書いて、削って、書いて、削ってと繰り返す過程で絞り出されてはじめて、こんな成分が含まれていたのかと気づくことも多い。

意味の外にあるおもしろいものを抽出できるように、複雑な自然を複雑なまま「観る」目を養っておきたい。

(齋藤亜矢「単純と複雑」『図書 第八三九号』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

(注) 1 ピクトグラム——絵文字。

2 スキーマ——図式、枠組み。

問三 空欄

Y

Z

に入る表現として最も適切なものを、次の選択肢からそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。

い。解答番号は、Yが14、Zが15。

- (a) だから
- (b) もっとも
- (c) むしろ
- (d) さらに
- (e) つまり

問四

傍線部A「安直な意味は鑑賞のじゃまになるのだ」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は16。

- (a) 作品を鑑賞するとは、一般的な意味を読み取るのではなく、作り手の思いを推測し味わうものであるから。
- (b) 作品を鑑賞するとは、単純化された意味に基づきながら、具体的なイメージを広げていくものであるから。
- (c) 作品を鑑賞するとは、表層的な意味にとらわれることなく、深く自分なりの解釈を施すものであるから。
- (d) 作品を鑑賞するとは、観念的に意味を抽出するのではなく、モノ本来のあり方を捉えるものであるから。
- (e) 作品を鑑賞するとは、日常的な意味処理を行いながらも、非日常的で特別な体験を楽しむものであるから。

問五

傍線部B「熊谷守一」とあるが、彼の説明として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は17。

- (a) 熊谷守一は、意味を形成していない自然に意味を見出すことによって、自然の複雑さを表現している。
- (b) 熊谷守一は、自然のもっている本来の形などを具体化することによって、自然の神秘性を表現している。
- (c) 熊谷守一は、ひと時も同じではない表情を見せる自然を描くことによって、自然の奥深さを表現している。
- (d) 熊谷守一は、自然がもっている大量の情報を正確に捉えることによって、自然の多様性を表現している。
- (e) 熊谷守一は、自然そのものを観察して精髓を抽出することによって、自然の豊かさを表現している。

問六 本文の内容と合致しているものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。 解答番号は

18

- Ⓐ 意味を伝えるためには言葉というコミュニケーションツールを用いるのが、最も確実である。
- Ⓑ 隠された意味や意味ではない部分を見出すところに、デザインやアートの醍醐味だいごみが存在する。
- Ⓒ 相手が求めている情報を簡潔にわかりやすく表現することが、文章を書くときの要諦である。
- Ⓓ 抽象的な現代アートにおいては、奇想天外な意味を読み取ることができる作品が評価される。
- Ⓔ アートの鑑賞には、「見る」と「視る」と「観る」の区別が明確についていなければならない。

メ モ

試験問題は次に続く。

次の文章を読んで、後の問一〜六に答えなさい。

白洲正子の文章を読んでいると、時々、書き手の年齢がぐっと若返って娘のようになり、言葉が急に艶やかになる瞬間に出くわす。自分もないもの、というより、「ふつう」の人には絶対にないなにかを持っていて、本人もはっきり意識していながら知らんぷりしているような、ある意味でよく出来た人間を前にしたときにそれは発現するのだが、その感覚はどうやら、出会いのたびにコウシンされる、つねに新鮮な恋に似ているような気がする。美点でもなんでもない部分を誇示して他人の心の隙間に入り込もうとする者ばかりが目立つ厄介な環境に身を置きながら、あえてみずからの美点に気づかずにいる才人の自然さには、たしかに周囲をほっとさせ、とがった部分をやわらげる効果がある。いまの時代には、おそらく、なくてはならない存在だろう。ただし、そうした X はどこか緊張感に欠けていると見る向きもあって、文章に触れるかぎり、白洲正子もそういう視点の持ち主だったように思われる。しかも彼女は、むしろ前者に、厄介な連中に心惹かれるところがあった。

Y、と否定的に評する。しかし、まわりにそんな言葉を吐かせてしまうようでは、ふんぞり返り方もまだ「ふつう」の領域にとどまっているのではないか。言葉を交わすことがほとんど快樂に等しい緊張と同程度の絶望をもたらす人間がこの世にはいて、そういう種類の人々だけが、狭い意味で師友と呼ばれうるのだ。

師友に恵まれるのは、ひとつの才能である。出会うこと、出会いの場に居合わせることも、まぎれもないひとつの才能だ。人をモノと言い換えれば、骨董を前にしたときの言葉に色が出てくる瞬間も理解できるだろう。結局のところ、人づき合いも創作と同義なのだ。作品そのものではなく、過程のある創作行為だからこそ正負の駆け引きがあり、白黒の落差ができる。その落差を享受できなければ、《作品》から永遠に遠ざかることになるだろう。

白洲正子が書き残している《作品》の基本形のひとつは、青山二郎とのあいだの距離の調整法だが、彼女は「ふつう」でない人の息が聞こえる範囲内においてその基本に忠実に生き、巧みな呼吸の間合いを堂々と消化しながら相手の色には染まらず、染まらないでもその場では相手の自尊心を傷つけない引きの技をもっていた。結果として深く傷つけるかもしれないことを、うすうすは承知のうえで。

骨董の世界には、美を形あるものとして所有し、手で触れ、眼で触れて味わい尽くす生活者タイプのコレクターと、あらゆる分野のあらゆる事象にツウギョウしつつ、売り買いよりもまとまりのある蒐集を目指すタイプのコレクターがあつて、古美術の正しき指南役であつた細川護立は後者、青山二郎や小林秀雄は前者に入る、と彼女は言う。どちらも目利きであり、すぐれた師であることには変わりないのだが、絶望と危うさを含んだ言葉のイ

ソウにおける恋の発生は、否応なしに、「ためることにのみ熱心で、散じる喜びを知らない」後者よりも、売り買いを日常とする前者に近くなるだろう（「細川護立」『心に残る人々』）。

文章にしてもおなじことが言える。「叩けば音が出るものが、文章なんだ」という青山二郎の言葉を彼女は心に留め、一方で、その師の呻吟^{しん}ぶりをひとつとおり描いたあと、こうも記す。

それは隅から隅まで醒めた文章で、よけいなもの一つもない、骨だけ見せたような文体であった。その範囲^Aにおいて申し分なかったが、文章も生きものであることを、ジイちゃんは忘れていた。

（「何者でもない人生 青山二郎」『遊鬼 わが師 わが友』）

叩いても音の出ない文章だった、と彼女は記さない。「その範囲において」という冷徹な一語を緩衝材として、音が悪かったことを読者に示すのだ。深い愛情と理解に基づくきわどい距離感。大切な教えの裏に、それを自分で崩してしまう敗北の臭いを彼女は嗅ぎ取る。自分自身もなにかに敗北していることをどこかで認めているから、正負の境を愛するのだ。恋が生まれるのは、そこである。その現場に立ち会いたくて、私は白洲正子を読む。

（堀江敏幸『坂を見あげて』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一 傍線部ア～ウを漢字表記に改めた場合、これと同じ漢字を用いるものを、次の各群の選択肢からそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマーク

しなさい。解答番号は、アが 、イが 、ウが 。

ア コウシン

- Ⓐ シュコウしがたい意見
- Ⓑ ソッコウで先取点をとる
- Ⓒ 大臣をコウテツする
- Ⓓ キヤッコウを浴びる
- Ⓔ 話がイッコウに進まない

イ ツウギヨウ

- Ⓐ イギヨウを成し遂げる
- Ⓑ オオギヨウな身振り
- Ⓒ 一点をギヨウシする
- Ⓓ ギヨウテンの星
- Ⓔ ギヨウギが良い

ウ イソウ

- Ⓐ 条例にイキヨする
- Ⓑ 身体の各ブイ
- Ⓒ エイイ研究に励む
- Ⓓ ジンイ的なミス
- Ⓔ イギを唱える

問二 空欄 に入る表現として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 。

- Ⓐ 教養豊かな存在
- Ⓑ 貫禄かんろくのある様子
- Ⓒ 厳かな雰囲気
- Ⓓ 徳のあるたたずまい
- Ⓔ 誠実さの感じられる姿

問三 空欄 Y に入る表現として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 23。

- (a) 目を疑う
- (b) 鼻持ちならない
- (c) 耳が痛い
- (d) 身につまされる
- (e) 手に負えない

問四 傍線部 A「その範囲において申し分なかった」とあるが、このように表現することによって白洲はどのようなことを意図していたのか。筆者の

考えとして最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 24。

- (a) 青山の文章は情緒に欠けるところがあつたということをじかに批判しようと意図していた。
- (b) 青山が思うように文章を書けず苦しんでいたことをそれとなく示そうと意図していた。
- (c) 青山の文章は深い味わいのないものであつたということを言外に匂わそうと意図していた。
- (d) 青山は文章について本当はよくわかっていなかったということを指摘しようと意図していた。
- (e) 青山の思っていることは文章からは伝わってこないということを喝破しようと意図していた。

問五 白洲は青山に対してどのように接していたのか。筆者の考えとして最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。

い。解答番号は 25。

- (a) 白洲は青山に対して人としては厄介な人物だとは思いつつも、作品そのものには惹かれていた。
- (b) 白洲は青山に対して骨董の鑑賞の仕方などの教えを受けながらも、心から慕っていたわけではなかった。
- (c) 白洲は青山に対して高慢な人であるとは思いつつも、どこか憎めない人柄に好感を持っていた。
- (d) 白洲は青山に対して尊敬の念を持ちつつも、感情を害してしまうほど批判的になってしまっていた。
- (e) 白洲は青山に対して深い理解を示しながらも、完全に同化してしまうというわけではなかった。

問六 本文の表題として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

26

- ㉑ 高慢な人たちとのつき合い方
- ㉒ 恋の芽ばえる場所
- ㉓ 骨董を愛でるように綴る
- ㉔ 誇り高き師友たち
- ㉕ 琴線に触れる文人たち